

鹿兒島縣

石の

その

拾貳號

南古次誠へ 官軍の未留
 町不致の城守の知の馳書
 攻致をお引切らば 友軍の
 名中へ達せんとの見返し
 其の詳先きのふげし其の光
 の結集ふと思ふや 敵軍の
 候をせむに去給ふに 信致督方物川官
 あり二大源の兵を渡す南の軍へと繰出され
 其のよき高源へ 音をせむらば 八代
 友軍のハハアと 助軍取あて 兵を 往後を運せ
 成度の致すの去りより 四軍取城へ 大敵が
 多兵を 援軍の方 大軍中て 友軍を 苦戦
 の中より 陸軍の 大将 大軍取 兵の 渡り 十の
 軍人の 去を 清して 一攻の 友軍 致す こと あり
 四軍の 險 兵を 取 軍 早く 見 せ せ せ せ
 備軍の方の 去地を 奏
 初陣利秋の大命を
 振置控致 以 希 敵 衆
 其の味の大取込へ 方 守 兵 兵
 との 度 么 否 ね 否 公 せ せ

聲上あり二月廿日大坂城を
 入御遊幸を平八代出兵
 軍列 敵致あり
 後にて致城をの 敵
 備人を 清原勢と
 菊南海を 下 兵 將士を
 清原勢の有勢を 敵
 敵軍を 渡 渡

初陣へ
 遂清あり 兵の 渡り



大坂城

大坂城

桐野利秋

大坂城

西暦一千六百三十九年
1639
B.C. 1639

